

平成 2 2 年度 実施事業	事務事業名 特別保育事業（あそびの広場）
-------------------	-----------------------------

区分	番号	名 称
章	1	やさしさと共生するまち
節	1	安心して子どもを生み育てられるまちをつくる
施策	1	子育ての不安と負担の軽減
小分類	1	地域での子育て支援
主要な施策	4	子育てについての学習、体験機会の充実
事務事業番号	001	事務事業コード 11114001 事業開始年度 平成 1 0 年度 事業終了年度 平成 - 年度

会計種別	一般会計	予算書上の事務事業名	特別保育あそびの広場実施経費
------	------	------------	----------------

部 名	保健福祉部	グループ名	子育てG
-----	-------	-------	------

統合前または名称変更前の事業名	
-----------------	--

事務事業の目的と成果

目的	<p style="background-color: #ffff00;">（事務事業の実施目的を具体的に記載してください）</p> <p>就学前の乳幼児とその保護者を対象に、子育てについての学習、体験の機会の充実をはかり親子の交流を深める。</p>
手段（事業の内容・活動）	<p style="background-color: #ffff00;">（目的を達成するためにどのような手法で行うのか、事業の概要を具体的に記載してください）</p> <p>子育て支援センターの行事日の事業として、年齢別のグループごとに、親子のあそびなどの指導及び親子の交流を目的とする「あそびの広場」を開催する。</p> <p>中央子育て支援センター（1開催は、週1回で連続する5週で実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 0歳児グループ～2開催38人参加 ・ 1歳児グループ～4開催78人参加 ・ 2歳児グループ～2開催40人参加 <p style="text-align: right;">計8開催156人参加</p> <p>登別子育て支援センター（1開催は、週1回で連続する7週で実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 0歳児グループ～1開催20人参加 ・ 1歳児グループ～2開催41人参加 ・ 2歳児グループ～2開催32人参加 ・ 3歳児グループ～1開催19人参加 <p style="text-align: right;">計6開催112人参加 合計14開催268人参加</p> <p>人数は、親子の合計で、延べ人数を表します。</p>
成果	<p style="background-color: #ffff00;">（事務事業の実施成果を具体的に記載してください）</p> <p>育児力の低下が指摘されている昨今、遊びを通して親子のふれあいや親子同士の交流の場を提供し、児童の健全育成及び保護者の精神的負担の軽減を図る。</p>
根拠法令等	<p style="background-color: #ffff00;">（事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称をすべて記載してください）</p> <p>・ 登別市子育て支援センター条例</p>

指標の推移

区 分		単位	区分	22年度 実績	23年度 目標	24年度 目標	25年度 目標	26年度 目標
成果 指標	開催数	回	目標値	14	14	14	14	14
			実績値	14				
	延べ参加者数	人	目標値	320	320	320	320	320
			実績値	268				

事業費の推移

区 分			単位	22年度 決算	23年度 当初予算	24年度 見込	25年度 見込	26年度 見込	24～26 年度
事業の 財源内訳	国庫支出金	名称 次世代育成支援対策交付金	千円	228	220	220	220	220	660
	道支出金	名称	千円						0
	地方債	名称	千円						0
	その他	名称	千円						0
	一般財源	名称	千円						0
合 計				228	220	220	220	220	660
(参考) 上記事業を実施する上で 必要となる人件費			職 員	千円	312	320			
			嘱 託 員	千円	0	0			
			臨時職員	千円	60	61			
			合 計		372	381			

担当グループによる事務事業評価の内容

1. 事務事業の妥当性について			
今後も市が事業主体として実施していくことは妥当ですか？	→	妥当である 妥当ではない	→ 妥当である理由、妥当ではない理由は何ですか？ 年齢に応じた遊びの指導や親子同士の交流の場の提供は、特に、家庭内保育者にとって有効な事業である。
2. 事務事業の成果について			
成果はあがっていますか？	→	成果があがっている どちらかといえばあがっている 成果があがらない	→ 成果があがっている理由、あがらない理由は何ですか？ 開催ごとに、常に定員10組に近い申し込みがあり、当事業に対するニーズが高い。
3. 事務事業の成果向上について			
成果を向上させることはできますか？	→	大きく向上させることができる 少し向上させることができる 向上させることはできない	→ どのようにして向上させますか？ 向上させることができない理由は何ですか？ 本事業を継続的に実施することで、遊びを通して親子のふれあいや親子同士の交流の場を提供し、児童の健全育成及び保護者の精神的負担の軽減を図ることができる。
4. 事務事業の経済性・効率性について			
成果を落とさずにコスト（予算や人工、所要時間）を削減することはできますか？	→	削減できる 削減できない	→ どのような方法でコストを削減しますか？ 削減できない理由は何ですか？ 人的要素を含む費用は、必要最小限にて実施しているため、削減は難しい。

担当グループによる評価

維持	左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）	本事業は、親子同士の交流の場の提供や育児力の向上などを目的とした「子育て支援センター運営事業」の一部であり、参加者から好評を得ていることから、引き続き必要な事業である。
-----------	----------------------	--

総合的な評価（当該事務事業の方向性）

維持	備考
-----------	----

評価の種類

- 拡大（事務事業の規模や経費を拡大し、これまで以上に強力に推進する事務事業）
- 維持（現状の対象や目指す姿、手段などに変更が無く、今後も実施する事務事業）
- 改善（現状の手段や経費などを見直し、成果指標の向上等を行う必要がある事務事業）
- 休止（暫定的に休止する事務事業）
- 終了（当初から決められていた事業期間が終了または成果品等が完成し、目的を果たした事務事業）
- 廃止（当該事務事業の予定を変更し、廃止する事務事業）